

資料提供	
令和2年11月26日	
担当課 (担当者)	教育人材開発課 (坂田、原、廣川)
電話	0857-26-7577

## 令和2年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）の被表彰者の決定

このことについて、下記のとおり決定されましたので、お知らせします。

### 記

#### 1 教育者表彰（文部科学大臣表彰）について

学校教育の振興に関し、特に功績顕著な教育者の功労をたたえ、これを文部科学大臣が表彰するもの。

#### 2 被表彰者（3名）

小林 研志（こばやし けんし）（60歳）（湯梨浜町立羽合小学校長）

田中 宏（たなか ひろし）（59歳）（鳥取県立米子東高等学校長）

藤田 則恵（ふじた のりえ）（59歳）（鳥取県立白兔養護学校長）

#### 3 功績等

別紙のとおり

#### 4 表彰式

日時：令和2年12月3日（木） 午前11時55分から

場所：ニッショーホール（東京都港区東新橋1-1-19）

【別紙】

令和2年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者

ふりがな 氏名	こばやし けんし 小林 研志	年齢	60歳
職名	湯梨浜町立羽合小学校長		
主な功績	<p>平成29年4月から、鳥取県教育委員会事務局中部教育局長として「中部版スクラム教育」を推進した。中部地区市町教育委員会と連携して「子どもたちの確かな学力の向上」と「不登校及び問題行動」等の教育課題解決をめざした取組を行うとともに、「活用力アップにつながる授業改善事業（B-PLAN）」を立ち上げ、活用問題集の活用を授業改善のPDCAサイクルに位置づけ、授業研究を通じた教員の授業力向上を図った。</p> <p>北栄町立大栄小学校長として、平成28年に生じた鳥取県中部地震の際には、事前の防災に対する取組を生かし、的確に指示して子どもたちの安全を守ることに尽力した。平成31年4月に湯梨浜町立羽合小学校長に就任後は、学校と地域が積極的に関わる堅牢な仕組みを構築するとともに、校務分掌を大幅に改革し、職員の学校運営への参画意識、意欲は大幅に向上した。</p> <p>令和元年度は鳥取県小学校長会の副会長として、第66回中国地区小学校長会研究大会鳥取大会を成功に導いた。令和2年度は同会の会長として、各校長を束ね、学校経営等の研究をリードしている。</p>		

ふりがな 氏名	たなか ひろし 田中 宏	年齢	59歳
職名	鳥取県立米子東高等学校長		
主な功績	<p>平成9年4月から鳥取県教育委員会事務局高等学校課において、指導主事として数学教育の充実や教育課程編成などに取り組み、また、管理主事及び管理係長として、より適正な人事管理のために人事異動公募制度の導入など、時代の要請に応える学校経営に係る制度の構築を主導した。</p> <p>平成27年4月からは、鳥取県立米子高等学校長として、学習科学セミナーを主催し授業改革の全県的な普及を行った。またアメリカ合衆国及び大韓民国の高校との国際交流など総合学科の特色を活かした施策を行うとともに、国公立大学への進学者数も過去最高を記録するなど生徒の進路指導に力を注ぎ、同校を鳥取県内でも有数の入試倍率を誇る人気校に育て上げた。</p> <p>平成30年4月からは鳥取県立米子東高等学校長として、全日制課程においては、国公立大学に毎年200名以上が合格する一方で、多くの部活動が全国大会へ出場する文武両道の学校の基盤を盤石にした。また、スーパーサイエンスハイスクール事業を軌道に乗せ、掃除や挨拶運動にも力を入れ、知徳体のバランスの取れた生徒の育成に尽力した。定時制課程においては、個々に応じたきめ細やかな指導を行うとともに、生徒理解に関する教員研修を行うことなどによって、教職員の指導力向上を図っている。</p> <p>令和2年度には鳥取県高等学校長協会長としてもリーダーシップを遺憾なく発揮し、鳥取県高等学校の発展に寄与している。</p>		

ふりがな 氏名	ふじた のりえ 藤田 則恵	年齢	59歳
職名	鳥取県立白兔養護学校長		
主な功績	<p>平成17年4月から、鳥取県教育委員会事務局障害児教育室指導主事として勤務して以降、7年間にわたり、鳥取県の特別支援教育の充実・発展に尽力した。特に、平成20年11月には、「鳥取県における今後の特別支援教育の在り方について～障害のある児童生徒一人一人の自立に向けた支援の充実のために～（答申）」を取りまとめ、平成21年度から平成25年度の5年間の方向性を示した。</p> <p>平成26年4月からは鳥取県立鳥取聾学校長として、地域の小中学校へ手話の普及啓発に力を注いだ。特に、鳥取県で開催された第1回全国高校生手話パフォーマンス甲子園では、学校が一丸となって取り組み準優勝を飾るとともに、県内外にその魅力を発信した。</p> <p>平成28年4月からは鳥取県立鳥取養護学校長として、全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会を成功に導くとともに、平成30年4月からは鳥取県立鳥取盲学校長として、県内の視覚障がい教育拠点設置に向け尽力するなど、さまざまな障がい種に係る特別支援教育の充実と発展に貢献した。また、令和2年4月からは鳥取県立白兔養護学校長として4校目の勤務にあたっているところであるが、学校の規模や障がい種、子どもの実態に即した学校経営は保護者や地域の認めるところとなり、学校体制を強固なものにしている。</p> <p>令和2年度は鳥取県立特別支援学校長会においてもリーダーシップを発揮し、鳥取県特別支援学校の発展に寄与している。</p>		

※年齢は令和2年12月3日時点